

道徳学習指導案

日時 平成28年10月6日(木)

児童 5年月組 男子5名 女子11名

計16名

1. 主題名 「友だちとの信頼・友情」 内容項目 2-(3)
「自分の役割の自覚」 内容項目 4-(3)

資料名 『お楽しみ会』(モラルジレンマ教材である白熱討論の道徳授業 小学校編)

2. 主題について

(1)主題のねらい

小学校学習指導要領解説編第5学年及び第6学年において、内容項目2-(3)では「互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。」、4-(3)では、「身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。」とある。資料では、学級の集団のこの二つの道徳的価値との間で生まれる葛藤の末、自分なりに考えを導こうとする態度を養っていききたい。また自分とは異なる立場や価値に対しても、葛藤し、迷う中で、その大切さについての理解を深めていききたい。

(2)児童の実態

児童は規範意識が高く、学級への参加意識も大きい。すべきことを理解し、着実に取り組もうとする児童が多く、友達や学級のためになるようなことを進んで行動できている。また、自分の振る舞いについて、道徳的価値があるものかどうかについても判断できている。そのため、それぞれの価値項目について一つずつ扱えば、おおむねその時間で触れさせたい内容について理解・判断することができるだろう。しかし、道徳の時間においてのみならず、授業や学級活動等、「正解」を判断しにくい課題に直面したときには、とたんに消極的になることが多い。各教科の授業においても、内容を確認するような発問を投げかけたときには積極的に手が上がるが、思考を伴う問いかけをしたときには話し合う意欲さえ持たなくなる児童が少なくない。また、失敗場面の対処の仕方では、これまでに学んだ対処のパターンをもとに行動しており、どこか形式的で、自分の心や考えをもとにした主体的な課題解決の姿勢とは言いにくい。

そこで、児童の関心が高い「友達・信頼」「集団での役割」について価値をぶつけ合わせて考えることで、自分なりに課題を解決しようとする態度を育てていきたい。

(3)資料について

本資料では、学年末の学級会でお楽しみ会を企画する場面を扱っている。班ごとに計画を立てて進

めるが、班長は立候補者から選び、立候補者が班のメンバーを指名する。主人公の一郎は、班長に立候補したよしおに、事前にメンバーになることを約束した。しかし、学級会が始まってみると、よしおの班は自分がいなくても十分円滑に計画を練ることのできそうな人が集まっていた。また、信一もその場で一郎を指名したが、信一の班は反対に、おとなしそうな人が集まっており、このままでは計画がうまく進まないかもしれない。このような場面で主人公はどうすべきかを考え、自分なりの理由をはっきりとさせていく。

本時は一時間構成で行う。

3. 言語活動について

自分の立場を明らかにして、その理由について意見交流を繰り返していく。また、積極的に話し合うことのできる児童と、そうでない児童に分かれることが予想される。一回目に立場を明らかにする場面や最後に自分の立場を決定する場面など、自分の考えを話し合いだけでなく、書き言葉で整理させるようにする。その場の話し合いには十分に参加できない児童も、自分の考えをより深められるように、目的をもって友だちの意見を聞けるようにしたい。

4. 本時について

(1)本時の目標

「友情・信頼」や「集団での役割」について、多面的な視点で考え、自分なりによりよい判断を模索しようとする態度を育む。

(2)本時の展開

	学習活動 ○主な発問	□予想される児童の反応	●評価 ※留意点
導入 15	1. 資料を読み、主人公「一郎」の迷いを確認する。 ○よしおに指名された時、一郎は何に迷っていたのか。 2. 自分の立場の判断を行う。 ◎自分が一郎だったら、どちらの班に入るか。	・教師の範読を通して、資料の内容をつかむ。 □仲良しのよしおの班に入るか、前から応援していた信一の班に入るか。 □親友との約束を守るか、お楽しみ会の成功をとるか。 ・黒板にネームを貼ったり、机上のプレートを立てたりして、自分の立場を示す。	※テレビを用意し、あらすじや内容の要点を押さえていく。 ※本文を配付し、後から確かめられるようにする。 ●自分なりの考えを表そうとしている。
展開前半 10	3. それぞれの判断について、意見交換を行う。 意見交換の場面…言語活動(話①) ○どちらかの班に入って、後から辛いことが起こらないか。 ○信一の班にわざわざ入る必要があるのか。 ○どちらかの班を選んだとき、どんないいことがあるか。	A よしおの班に入る □よしおのお母さんが聞いたら、もうよしおの家で遊ばせてもらえないかもしれない。 □逆の立場なら、信一は自分の班に来ないかもしれない。 □自分が入れば、よしおはきっと喜んでくれる。 B 信一の班に入る □仲良しの人とだけ仲良くしていたら、他の人にいじめられるかもしれない。 □最初に指名したのは信一だから、引き受けるべきだ。 □信一の班に入れば、どの班もうまく行くはずだ。みんなに認めてもらえる。	※意見が変わった場合はその都度挙手をして、立場の変更を伝える。 ※発問を繰り返ししながら、多様な意見を引き出していく。
展開後半 15	4. 論点を絞って話し合う。 グループ交流の場面…言語活動(話②) ①同じ立場のグループを作って話し合い、考えを深める。 ②全体で話し合う。 ○よしおとの友情を深める方法は一つしかないだろうか。 ○信一(またはよしお)の班に入ることだけが、クラスのためになることなのか。 5. 最後の判断・理由付けをワークシートに記入する。 ◎自分が一郎だったら、どちらの班に入るかについて、今の考えを書こう。 判断する場面…言語活動(書<①)	□離れたところでも支え合って、友情を深めていける。 □よしおをサポートして自信を付けてくれれば、これまでよりも良い関係を築ける。 □信一の班に入って、色々な人が班長をできるようになれば、もっといいクラスになる。 □よしおの班に入らなくたって、サポートすることはできる。 ・理由を明らかにして、自分の考えを書く。	※意見交流の活発さ等の状況に応じ、①・②を繰り返す。 ※交流を通して、立場を変えてもよいこととする。 ●自分なりの理由をもって考えが書けている。
整理 5	6. 資料に触れたり、交流したりして自分が考えたことをワークシートに記入する。 考えの深まりを自覚する場面…言語活動(書<①)	□友情を大切にすることは簡単ではないと感じた。 □いつも周りに合わせてばかりもよくないと感じた。	※5で使用したワークシートに続けて記入する。 ※意見の深まりや変化があったか確認する。

価値分析表

A よしおの班に入るべき	B 信一の班に入るべき
段階1 罰回避と従順志向(罰を避け、力のある物に対して盲目的に服従する)	
<ul style="list-style-type: none"> ・よしおのお母さんが聞いたら、もうよしおの家で遊ばせてもらえないかもしれない。 ・よしおの班を選ばなかったら、みんなに「約束を破る人間だ」と軽蔑されるかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生は「協力し合える班作り」と言っていた。もしよしおの班に入ったら先生に叱られるかもしれない。 ・仲良しの人とだけ仲良くしていたら、他の人にいじめられるかもしれない。
段階2 道具的、互惠主義志向(「〇〇してくれれば自分も〇〇する」のように取引のための人間関係)	
<ul style="list-style-type: none"> ・信一は、前から頼んできたわけじゃない。信一のためにそこまでする必要は無い。 ・逆の立場なら、信一は自分の班に来ないかもしれない。 ・よしおは事前に相談してきたから引き受ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最初に指名したのは信一だから、引き受けるべきだ。 ・一郎を班に入れたい理由もはっきり伝えてくれていた。自分を頼りたいという気持ちが伝わる。
段階3 よい子志向 (善い行為をすると、他を喜ばせ、他者から認められる。また、行為の是非は、行為の意図が善いか悪いかで判断される)	
<ul style="list-style-type: none"> ・自分が入れば、よしおはきっと喜んでくれる。 ・友だちの約束をきちんと守る人間と思ってもらえる。 ・自分ならよしおをうまくサポートできるかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・信一の班に入れば、どの班もうまく行くはずだ。みんなに認めてもらえる。 ・信一に対しても、応援したい気持ちは一緒だ。 ・よしおだけでなく、みんなが喜んでくれる。
段階4 法と秩序志向(正しい行為とは、義務を果たし、社会秩序を保つことと考える)	
<ul style="list-style-type: none"> ・よしおを支えて、班長として自信をもってくれば、クラスのためになるはずだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・後から弁解したら、よしおは理解してくれるはずだ。こうした時にも、わかり合えるのが友だちだ。 ・お互いが自分の力を一番発揮できる場所で活躍するべきだ。

発問一覧

①理解を確認する発問	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一郎と信一はどのような関係か。 ・ 周りの人の無責任さとはどんなところだろう。 ・ 先生はどうするべきだと思っているだろう。 ・ 一郎は、どんな気持ちで信一のたのみを引き受けようとしたのだろう。 ・ (一郎を含め)みんなはどんなお楽しみ会にしたいのだろう。
②議論に参加させる発問	<ul style="list-style-type: none"> ・ みんなにも「この人に頼まれたら断れない」という友だちが思い浮かぶか。
③定義の発問	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協力するとはどんなことだろうか。
④より高い段階の反応を引き出したり、その反応に焦点を合わせたりする発問	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分でなくて、太郎やちか子など他の人が信一の班に入ればいいのか。 ・ 事前に頼まれていないのに、信一の班に入る必要があるか。
⑤役割取得を促す発問	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分だけ班を決められないで立っているとき、何を考えているだろうか。 ・ よしおの班に入ったら、みんなは一郎のことをどう思うだろう。 ・ 信一の班に入ったら、よしおのお母さんが聞いたら、どう思われるだろう。 ・ 信一の班に入ったら、よしおとの関係はこれからどうなっていくだろう。 ・ 信一の班に入ったら、みんなは一郎のことをどう思うだろう。 ・ 信一の班に入ったら、一郎はお楽しみ会を楽しめるだろうか。 ・ 一郎は、信一がこれまで立候補しようとしていたことを見ていて、どう感じているのだろう。
⑥一般的な結果に対する発問	<ul style="list-style-type: none"> ・ もし信一の班に入らなければ、どんなお楽しみ会になるか。 ・ よしおの班に入ったら、よしおとの関係はこれからどうなっていくだろう。
⑦道徳的価値の重要性の根拠を求める発問	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周りのことをいつも考えて行動しなければならないのか。 ・ 「友情」とはどんなことだろう。 ・ 「協力する」とはどんなことだろう。 ・ どうすれば、みんなが納得できるだろう。 ・ 一郎はどちらの班に入るべきか。

板書計画

